

## 12月3日(土)「第39回人権を考える町民大会」が開催されます

人権週間（12月4日～10日）に併せて「第39回人権を考える町民大会」を老人福祉センターにて開催いたします。今回の講演の講師は、全国隣保館連絡協議会常任顧問兼事務局長の中尾由喜雄さんです。

中尾さんは、阪神・淡路大震災の時に避難所の一つとなった隣保館に勤務されていました。ここでは、震災当時避難した、同和地区内外の住民400人と聴覚障害者7人が、数ヶ月にわたって生活を共にしました。そのとき“人権の尊重”…これが震災という非日常の中でどう生かされたのか。一人ひとりが、かけがえのない人間として実感するために、何ができるのかについて、現場での実際の経験に基づいた講演をしていただきます。大勢の皆さんのご来場をお待ちしております。

「人権」について考える良い機会としてとらえ、お互いの人権を尊重し、つながり・支え合い・共に生きる温かなまちづくりを実現しましょう。

## 女性の人権ホットライン強化週間の「特設相談所」開設について

法務省と全国人権擁護委員連合会では、配偶者やパートナーからの暴力、職場等におけるセクシャル・ハラスメント、ストーカー行為といった様々な女性の人権問題についての相談を受け付けるため、「女性の人権ホットライン（電話受付）」を開設しています。

本年度も、11月14日(月)～20日(日)を、女性の人権問題の解決を図るための取組を強化するための全国一斉「女性の人権ホットライン強化週間」と定め、この強化週間に併せて、「特設相談所」が開設されます。

- 日 時 11月19日(土) 午前10時～午後3時
- 場 所 佐久市中央隣保館 相談は無料で秘密は厳守します。予約は不要です。

なお、「女性の人権ホットライン」は年間を通じて受け付けています。

電話 0570-070-810（平日 午前8時30分～午後5時15分）

※当週中のみ 14日から18日（平日） 午前8時30分～午後7時  
19日と20日（土・日） 午前10時～午後5時

移住促進用のPVやウェブサイトの製作、空き家バンクに関する活動をしています。PV制作ではクラインガルテンの音楽家ご夫妻に出演と曲の提供をお願いしています。とても素敵なお声も曲も透明な優しいものばかりで、立科町の魅力を一層引き立ててくれると確信しています。また、すぐに居住可能な物件を1軒、空き家バンクに登録できました。移住希望者が、近隣市町村に流れてしまう現状を食い止めたたく、移住者の住居確保につながる取組みが必要と感じています。居住可能な空き家にお心当たりのある方は、ご一報いただくと嬉しいですよ。



## ●協力隊の移住・定住促進担当、浜野 みゆきです

10月8・9日、当町においてリンゴの新規就農希望者向けのワーキングホリデーが実施されました。これは「農業に興味がある、農業を職業にしたい！」と考えている方への農業体験会であり、今年度から開始された、立科町での就農を目指す方への相談会から企画されたものです。今回は3組5名の方にご参加いただき、リンゴの葉摘み、収穫体験や町内案内等を行いました。今回の体験会に限らず立科町の農業の魅力、立科町の魅力を伝えるべく、今後も精一杯PRをしていきます。



## ●協力隊の農業振興担当、中島貴宏です



地域おこし協力隊

“奔走中”